

西国第三十一番 姨綺耶山

御本尊／千手十一面聖観世音菩薩三尊一休
開基／聖徳太子 開闢／武内宿彌

単立 長命寺

納経帳と御寶印

観音様と歩む巡礼の道

住職 武内隆詔

ようこそ「健康長寿の観音さん」姨綺耶山長命寺へお参りくださいました。今回は皆様が観音様に御礼拝された後、お受けいただく御寶印についてご説明申し上げたく存じます。西国札所ではいわゆる「朱印帳の」ことを「納経帳」、ご朱印のことを「納経印」又は「御寶印」と称します。これは西国札所の御朱印は本来、観音様に礼拝する際に経

典を写すか読みあげるかあるいはその両方を行った証として授与されることに由来します。当山御本尊の御寶印は基本的に三種類の印判と墨書からなります。右上に「西国三十一番」の番号印・左下には「姨綺耶山長命寺」の寺印・そして中央には柳の木に囲まれた千手観音様の種字「キリク」が刻まれた本尊印を配しま

す。種字とはその仏様の全てを顕す梵字（古代インド文字）のことです。

柳の木に囲まれている理由は、古の昔、当地に來られた武内宿禰さまが大きな柳の木に『寿命長遠諸願成就』の願文を刻まれたことで三百年にわたる長寿を保たれ、後の世にその柳を用いて聖徳太子様が千手観音様を造立された、という長命寺開闢の伝説を表しているからです。この柳の木は寺伝に現在本堂が立っているあたりに生えていたと伝わります。そして御寶印の上に、大きなお慈悲をお持ちの観音様がいらつしやるお堂という意味で「大悲殿」の文字を墨書いたしております。

御寶印の押された納経帳や宝印軸は、まさに紙上に表された観音様の伽藍をお持ち帰りいただいているとも言えます。一ヶ寺ずつ巡るごとに一

緒に歩みを進めてくださる観音様がだんだんと増えてまいります。

巡礼の道程は人生に似て、天候や体調、周囲の状況など予定通りにいかないことも多々生じます。思い通りにいかず焦燥にかられる場面もあるでしょう。そんな時は観音様と一緒に歩んでくださっていることに思いを巡らせてみてください。観音様とともにあることを心に留めて、着実に巡礼の歩みをお進めください。

